



市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2011(平成23)年1月末現在	
総人口	318,658(2,153)
男	153,812 (1,099)
女	164,846 (1,054)
世帯数	136,403(1,296)
住民基本台帳人口の内部(外国人を除く)	
本 庁	95,967
真和志	104,523
首 里	57,841
小 禄	58,174

図1 那覇市および豊見城市がそれぞれ主張する海上境界線

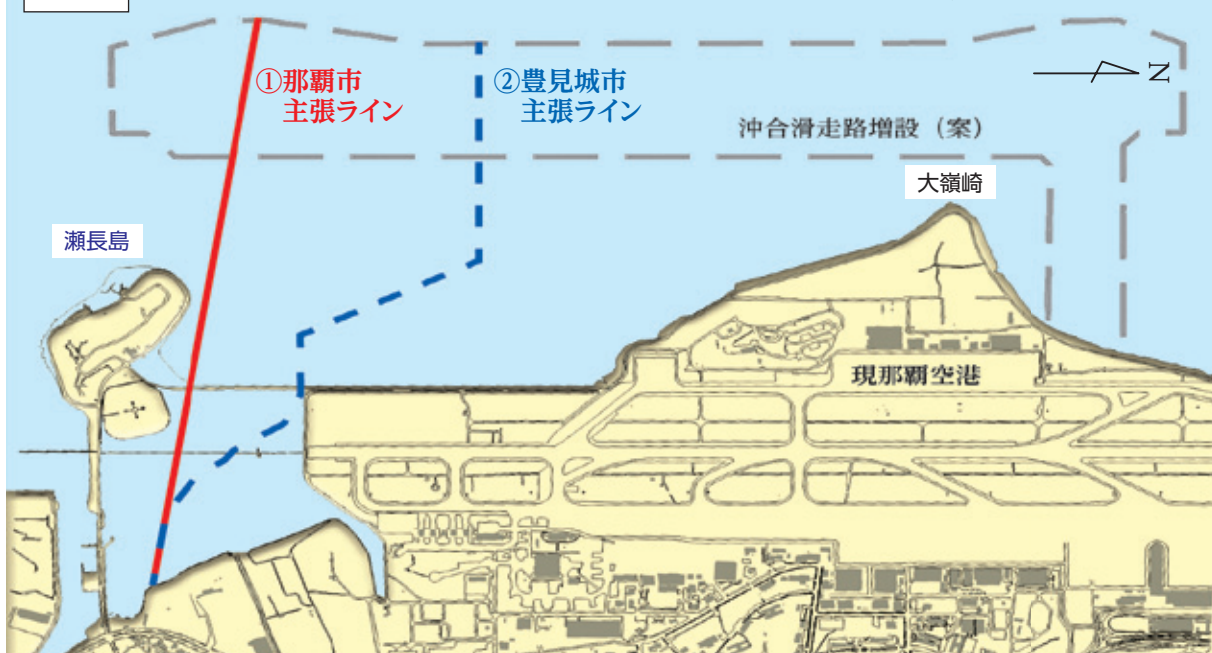


図2



琉球国惣絵図(間切集成図)

資料：沖縄県立博物館

どこから那覇で、どこから豊見城？
本市と豊見城市の海上境界線問題

那覇空港近くの瀬長島。市から瀬長島へ行く途中に、市と豊見城市の境があります。陸地の境界線は分かりやすいのですが、その先の海上にも境界があることをご存知ですか？
残念ながら、市と豊見城市の瀬長島側の海上における境界線については、長きにわたり両市で協議を重ねてきましたが、合意には至っていません。
現在、那覇空港の沖合に滑走路を増設することが計画されていることから、海上の境界線確定が急務となっています。
沖合の滑走路が完成すると、燃料費と税や固定資産税に相当する交付金などが新たに発生し、その額は億単位にのぼると想定しています。これらの交付金などは主に、那覇空港を管理している国から、沖合の滑走路が属する自治体に支払われるため、客観的・合理的な境界線確定が必要です。

海上境界線問題の発端と経緯

この問題は、昭和48年に国土地理院から市と当時の豊見城市に対し、境界線の位置確認依頼があったことに端を発します。
市は、戦前の専用漁業権に基づいた線が境界線であると認識していましたが、

昭和54年以降、境界線確定に向けて両市で協議を重ねるなか、平成13年には、歴史的資料である「琉球国惣絵図」が米国で発見されました。この絵図に示される海上境界線「海方切」は、これまで市が主張してきた境界線と一致しており、市の主張を裏付ける重要な根拠になるものと考えています。

「琉球国惣絵図・海方切」とは？

「琉球国惣絵図・海方切」(図2)は、18世紀の琉球王国の絵地図で、当時の行政区画(間切)を示したものです。この内の「南風原、豊見城、真和志、小禄間切」の図には、現在問題になっている瀬長島側の海上における境界線(海方切)が明示されています。

この境界線(海方切)は、専門家により歴史的にも支配・管理・利用の海域における境界線として実効性を持ったものであるとの解釈が示されています。

両市、それぞれの主張

市が、この「琉球国惣絵図・海方切」と同じ海上境界線(図1の線①)を主張する一方、豊見城市は、陸地と陸地の中間点を結んだ陸地間等距離線(図1の線②)が境界線であると主張しています。

このような市町村間の海上境界線確定問題は、他の自治体でも起きており、裁判で争った事例もあります。過去の判例では、境界は歴史的な支配や管理の状況が基準となると示されています。

市では、この問題を非常に重要視しており、今後地方自治法に基づく調停申請を行うなど、早期解決に向けて必要な取り組みを進めていきます。

【お問い合わせ】

企画調整課 ☎862・9937

協働さん

いらっしやい!!



市民・事業者・行政が支え合う
協働のまちづくりに取り組む
団体、個人を紹介します。

第4回

「壺屋やちむん通り祭」 実行委員

お問い合わせ
市民協働推進課 ☎861-3846



「壺屋やちむん通り祭2010」
実行委員
高江洲啓子(たかえすけいこ)さん

第4回は前回の栗国智光さん
のご紹介で、同じく市の協働大使
で、「壺屋やちむん通り祭」実行委
員の高江洲啓子さんです。

年々来訪者も増え、にぎわ
いを見せる「壺屋やちむん通り
祭」について伺いました。

Q やちむん通り祭のねらい
祭りをとおして、地域全体の
活性化を図ることが大きなねら
いですね。

祭りが始まった当初は、祭り
による売り上げに重点が置かれ
た面がありました。でも、通り会
の生活の基盤は、この壺屋のま
ちですから。この祭りも回を重ね
るうちに、地域への感謝の気持ち
を込めて、地元の方々も楽しめる
祭へ。そして、壺屋のまち全体がも
つと元気になるような、地域
の祭に育てていこうという流れが
できてきたように感じます。

Q 地域の活性化のために
生活の基盤である、この壺屋の
まちが活性化して、10年先、20年
先に今以上に元気なまちになつて、
みんなが楽しく生活できるまちに
なることが、とても大事だと思ひ

10年先、20年先を見据えて

活性化を図るためには、祭りを
地域の手作りで、そして、壺屋のま
ちで行うことに大きな意義がある
と思いますね。
壺屋で祭を行うことで、人々が
壺屋を訪れ、この場所を知りま
す。壺屋の歴史や伝統、昔ながら
のまちのたたずまいなど、壺屋焼
以外の魅力も分かってくもらえま
す。壺屋の魅力をアピールするこ
とで、知名度が上がり、活性化につ
ながると確信しています。

Q これからの展望は

壺屋のまちに対する熱い思い
を持つている方々が大勢います。
それらの点をつなぎ、線にして、
思いを形にしていきたい。そのた
めには、若い力が必要です。「壺
屋やちむん通り祭」をとおして、
次の世代にうまくつなぐ、橋渡
しをしていきたい。まちづくり
は、結局「ひと」ですから。

壺屋が持つている、たくさん
の宝を活かして、壺屋地域全体が、も
つと元気になるというなあ。



「壺屋やちむん通り祭」
年々、多くの来訪者でにぎわい、地域の祭りへ成長し
てきました。